

平成21年1月17日  
福祉保健局

## 医療機関におけるインフルエンザの集団発生にかかる 注意喚起について

この度、都内の医療機関において、入院患者及び職員の間でインフルエンザの集団発生があり、入院患者の3名が亡くなりました。

都は、当該医療機関に対して適切な対応と今後の再発防止の徹底を指導するとともに、都内各医療機関に対して別紙のとおり、院内感染防止の徹底に取り組むよう、本日付で注意喚起を行うこととしたのでお知らせします。

### <集団発生の状況>

- 1 医療機関名 医療法人財団明理会 鶴川サナトリウム病院
- 2 所在地 町田市真光寺町 197 番地
- 3 施設管理者 日野研一郎
- 4 罹患状況 入院患者 75 人 (内 3 名死亡、現在の有熱者 30 人)  
病院職員 24 人 (現在の有熱者 2 人)  
(1月17日現在)

\* 当該病院は、厚生労働省内の日比谷記者クラブを通じて、本日午後5時に各報道機関に発表します。

(問い合わせ先)

福祉保健局医療政策部

医療安全課 山川、小野、小島

電話 03 (5320) 4432

内線 33-432、410、412

20 福保医安第 913号

平成 21年 1月 17日

各医療機関管理者 殿

東京都福祉保健局医療政策部長

吉 井 栄一郎

(公 印 省 略)

病院におけるインフルエンザ対策について (注意喚起)

平素から、東京都の福祉保健行政に御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今般、都内の医療機関において、インフルエンザが集団発生し、複数の罹患患者が死亡するという事態が発生いたしました。

日頃より、院内感染防止として院内感染予防指針やマニュアルによる対策の徹底をお願いしているところでありますが、各医療機関においては、職員に対する指導をはじめ、院内感染防止のさらなる周知徹底について取り組まれるよう、よろしく願いいたします。

また、万が一、インフルエンザの院内感染の兆候が見られた場合には、速やかに管轄の保健所にご連絡いただきますよう、お願いいたします。

**【担当】**

東京都福祉保健局医療政策部医療安全課指導係

〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1

電話：03-5320-4432

平成21年1月17日

プレスリリース  
報道機関各位様

鶴川サナトリウム病院

院長 日野 研一郎

### 当院におけるインフルエンザ集団発生に関する件

#### 前略

各位ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私共の病院におきまして平成21年1月6日よりインフルエンザの集団発生がおき、残念ながら3名の患者様がお亡くなりになりました。患者様の病名及び経過の概要につきましては下記の通りですが、ご遺族の皆様に対する病状の説明等は誠心誠意行い、皆様方からご納得をいただいております。

集団発生の状況については、1月17日までに入院患者様75名が罹患致しました。(別紙資料1参照) インフルエンザワクチン未接種例は75名中9名でした。

解熱後48時間をもって終息と診断しておりますが、1月17日現在有熱者が30名・解熱後24時間以内が10名、35名は終息を迎えております。

今回の患者様の特徴は39℃以上の発熱者が41.8%、多数の患者様が37℃~39℃の範囲内でした。いずれの患者様もタミフルを投与され、一部肺炎を合併した症例などは抗生剤の全身投与などの全身管理を実施しております。

尚、病院職員につきましては1月3日の発生から連日数名ずつの発生が見られ、合計24名罹患しました(別紙資料2)が、現在終息していない者は4名です。24名中3名がインフルエンザワクチン未接種でした。

#### 「死亡例」

##### ① 85歳 女性

病名: 高度認知症で意思の疎通ができない。栄養障害、準寝たきり。

経過: 1月9日より38.6℃の発熱、インフルエンザA陰性。翌10日再検で陽性。タミフルを開始したが解熱せず、呼吸困難あり、肺炎と診断し、抗生剤の全身投与を始めた。呼吸不全が増悪し1月11日夜永眠。

##### ② 100歳 女性

病名: 高度認知症で意思の疎通ができない。寝たきり。自分で食事が摂れないため、経管栄養を行っている。心不全、糖尿病あり。

経過: 1月9日より38.7℃の発熱、インフルエンザ陰性。翌10日再検でA陽性となりタミフルを開始したが解熱せず、呼吸困難あり。同日、誤嚥を示唆する所見あり、肺炎と診断し、抗生剤の全身投与を始めた。肺炎の改善なく1月11日夜永眠。

### ③ 77歳 女性

病名:脳梗塞後遺症、栄養障害、右胸郭形成術後(肺結核による)

経過:1月9日より38℃の発熱、翌10日インフルエンザA陽性。37℃台の発熱が断続、肺炎を併発したため抗生剤を投与した。1月16日、治療の効果なく永眠。

次に今回のインフルエンザ集団発生における当病院の対策を以下に示します。

#### 「インフルエンザ集団発生における鶴川サナトリウム病院の対策」

##### (1) 標準予防策の徹底

全職員を対象に、より徹底する。複数の病棟を担当する医師はとくにN95に準じたマスクを装着し、手洗いを徹底する。職員は標準予防策を遵守し、また他の職員への確認と注意を行う。

##### (2) インフルエンザ感染患者への全身管理の再確認

ワクチン接種者は発熱が軽度のことが少なくないが、急な嘔吐による誤嚥性肺炎に進展する可能性があるため、経管栄養、経口食管理に充分注意する。禁食、点滴管理が好ましい。医師は高齢者においては抗ウイルス剤のみならず、抗生剤の全身投与、酸素吸入などを常に考慮して対処する。

##### (3) 感染患者の病棟内での処遇

単発例は隔離する。2-3名以上に達したら空室の状況により、コホート化する。複数の病室で散発した場合は、病棟全体を「病棟閉鎖」とし、入退院を制限する。また検査、リハビリ、外泊、面会を制限もしくは禁止する。場合によっては休眠病棟への隔離を行う。

##### (4) 未感染者への対策

発症者の多い病棟における無症状の入院患者は、抗ウイルス剤の予防投与を行う場合もある。また、この病棟で発熱がみられるにもかかわらずウイルス抗原検査が陰性の場合には、抗ウイルス剤を投与する。

##### (5) 患者様及びご家族への説明

発症を確認したら直ちに患者様、およびご家族へ説明を行う。また同病棟で未罹患者をふくめ、全患者および家族にインフルエンザの流行に関する通知を文書で行う。

##### (6) 関係機関への報告

病棟内で3名以上の感染者が発生したら地域の保健所へ連絡し、「積極的疫学調査」を開始する。院内の対応策を開示し、指示を受ける。重症化した例、回復した例、職員の罹患者数などの調査を経時的に行い、報告する。これらの一連の作業を院内感染対策委員が行い、感染制御担当委員が随時確認、検討し、院内感染対策委員会で報告する。

以上の件につき、いっそうの周知徹底をはかり、以て今後の対策と致します。

当院におけるインフルエンザワクチンの接種率を述べます。

職員は 335 人中 307 人 (91.6%) が接種しております。

患者様は 471 人中 418 人 (88.7%) が接種しております。

接種率を上げる為の啓発は進めておりますが、アレルギーの問題等で接種できない例もあります。

以上当院におけるインフルエンザ発生に関し、公表致します。

お亡くなりになられた患者様が出られたことは誠に残念です。心より哀悼の意を表しますことに今後このような集団発生の無いよう厳しく対処してまいります。

#### 付記

鶴川サナトリウム病院の概要

1月17日現在 入院患者数 448名 (精神科病棟 264名、内科・療養病棟 184名)

精神科 6病棟・内科 5病棟

認知症関連が大多数を占める。インフルエンザの発症有り 7病棟、発症なし 4病棟。

入院患者平均年齢 83歳

問い合わせ窓口

鶴川サナトリウム病院

東京都町田市真光寺町 197番地

Tel.042-737-7097

Tel.042-737-7088

Tel.042-737-1253